

第1編 計画概要

1. はじめに

(1) 計画の目的

本計画は、協働戦略事業の中の「はとやま再生・創造事業」として実施するものであり、子どもを中心とした地域再生を、町民と行政の協働で取り組むことを大きな目的としている。

【計画策定の背景】

- 鳩山町は、北部地域（亀井地域）、南部地域（今宿地域）、東部地域（ニュータウン地域）の3地域で構成されており、各地域に1校の小学校がある。
- 著しく進む少子高齢化は町全体の課題であるが、特に北部地域（亀井地域）では児童の絶対数が激減しており（平成23年度の亀井小学校入学児童数は11人）、また児童数が少ないことから地域内に学童保育施設がなく、子育て環境の悪循環を招いている。
- この状況は、ソフト的な子育て支援施策だけでは解消が困難であり、ハード的な施策である「子育て支援住宅」の整備が急務なことを表している。

このような状況を踏まえ、平成22年6月策定の第5次鳩山町総合計画では、通常の分野別計画とは区分し、町民と行政の協働を基調として戦略的な社会資本整備を進める「安心・魅力づくり協働戦略」を計画化している。

この「安心・魅力づくり協働戦略」に具体的に取り組むために、第5次鳩山町総合計画第1期実施計画では、7つの具体的な協働戦略事業を位置づけている。

<協働戦略事業における社会資本整備の方向性（抜粋）>

安心・魅力づくり協働戦略	第1期実施計画で検討する協働戦略事業	社会資本整備の方向性
2 はとやま 再生・創造戦略	②鳩山ニュータウン再生・創造事業（注）	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が急速に進むニュータウン地域の現状を踏まえながら、「高齢者が輝くまちづくり事業」と連携して、地域の社会資本を整備。 ・高坂駅へのアクセスの良さを活かす視点で、子育て支援住宅の整備も研究。
	③北部地域再生・創造事業	<ul style="list-style-type: none"> ・荒廃山林や遊休農地、人口減少などの北部地域の現状を踏まえながら「全町公園化・遊休地活用事業」と連携して、地域の社会資本を整備。 ・「里山環境を活かす地域づくり」のモデル地域を設定。 ・子育て支援住宅の整備も研究。
	④越辺川、おしゃもじ山再生・創造事業（注）	<ul style="list-style-type: none"> ・区画整理事業やまちづくり交付金事業により整備が進む社会資本整備に付加価値を創造。 ・商業、観光の復興。
	⑤全町公園化・遊休地活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・あるくロード整備。 ・「北部地域再生・創造事業」と連携し、間伐材のチップ化、腐葉土や花の苗づくりなどの施設整備を研究。（第3セクターの設立も研究）

（注）都市再生整備事業

(2) 地域住民意向の把握

本計画策定にあたっては、子育てに関係する団体職員、PTAなどから選出されたメンバーによるワークショップの開催、ならびに北部地域の全世帯を対象とした意識調査を実施し、意見収集及び意向の把握を行った。

①ワークショップの概要

- 実施日：平成23年11月11日（金）
- 会場：鳩山町役場3階305・306会議室
- 参加者：総勢35人
 - 第1グループ（計2班）：9時30分～11時30分
 - 第2グループ（計3班）：13時30分～15時30分
 - 参加組織（順不同）
 - ・鳩山町民生委員児童委員協議会
 - ・鳩山町立亀井小学校PTA
 - ・鳩山町立鳩山小学校PTA
 - ・鳩山町立今宿小学校PTA
 - ・鳩山町立鳩山中学校PTA及び教員
 - ・鳩山町立鳩山幼稚園PTA及び教員
 - ・社会福祉法人 萌芽福祉会 ひばり保育園
 - ・はとやま子育てネットワーク くるっくー
 - ・学童保育 おしゃもじ山クラブ保護者会
 - ・学童保育室 銀河鉄道'90 運営委員会
 - ・学校法人 山村学園 山村学園短期大学

●主な議論テーマ

- 子育て支援住宅の構造形式について
- 子育て支援住宅に配慮すべきことについて
- 望ましい付加価値について
- その他、地域づくりに関する意見



②意識調査の概要

- 対象世帯：北部地域（亀井地域）全世帯約650世帯
- 設問内容：
 - 子育て支援住宅の整備に関する意向
 - 付加価値に関する意向
 - 「北部地域（亀井地域）の再生・創造事業」に関する意向
- 実施方式：アンケート方式（区長による配布及びハガキによる返信）
- 回収数：248件（回収率約38%）

③ワークショップの結果概要

ワークショップ（5つの班）における意見及び総括は以降のとおりである。この結果については、次項の意識調査結果と考察の中であわせて検証材料とする。

	子育て支援住宅の構造形式について	子育て支援住宅に配慮すべきことについて
A班	<ul style="list-style-type: none"> 戸建て住宅がよい(子育て中は音に気を遣うため) テラスハウスがよい(下の階に迷惑がかからない) 木を活かした集合住宅がよい 鳩山NTと違ったかわいい住宅 土地が確保できなければ戸建ては困難 集合住宅にすればまとまった世帯数になる 	<ul style="list-style-type: none"> 間取りは、入居期限が子どもが中学卒業までなら2DK、高校卒業までなら3DK必要 L(リビング)があったほうがよい 省エネに配慮した設備が必要(ソーラー発電等) オール電化までは不要 鳩山NTのようなプロパンガスの集中制御 間伐材を利用した薪ストーブなど 駐車場は各戸に2台以上必要(夫婦で1台ずつ) 友人や親戚のための駐車場が必要
B班	<ul style="list-style-type: none"> 木を活かした住宅(戸建て若しくは集合住宅)がよい 昔の長屋のような集合住宅ならよい マンションは田舎にはなじまない 	<ul style="list-style-type: none"> 間取りは2LDK若しくは3DK程度必要 2DKでは不十分 祖父母も一緒に住める間取り 太陽光発電などの省エネ化(モデルとなるような) オール電化は不要 縁側ごしに近所の人と挨拶できるような開放感 駐車場は各戸に2台必要 家賃は3万/月以下が望ましい(他都市の子育て支援住宅よりも安く) 入居期限は子どもが18歳になるまでがよい
X班	<ul style="list-style-type: none"> 集合住宅がよい(共同の集会室付き) 地場産木材を使った住宅が望ましい 庭付き戸建てがよい 	<ul style="list-style-type: none"> 間取りは2~3DK(子どもの人数によって対応) 子どもの成長に応じた柔軟性のある間取り、収納など バリアフリー化、乳幼児の事故防止に配慮した設計 省エネ住宅であること 駐車場は各戸に2~3台必要 子育て支援住宅は亀井小からなるべく近い場所がよい
Y班	<ul style="list-style-type: none"> 戸建て住宅タイプがよい(プライバシーの面から) 根室市の事例のような多世代が住める共同住宅タイプがよい 	<ul style="list-style-type: none"> 間取りは2LDK(3DK)以上必要 家族が集まるリビングが必要 駐車場は各戸に2台必要
Z班	<ul style="list-style-type: none"> 戸建て住宅(プライバシーが保てる)、集合住宅(共同で生活できる)どちらもありだと思う 戸建て住宅タイプがよい(プライバシーの面から) ときがわ町のような戸建てタイプがよい 	<ul style="list-style-type: none"> 間取りは3DK~3LDKは必要 乳幼児の安全(ドアや柱の角など) 省エネ、ソーラー発電 駐車場は各戸に2台必要 家賃は2万円台が望ましい(最安をアピール)
総括	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーや音に配慮されており、地域に馴染む外観であれば戸建て、集合住宅どちらも可能性あり 	<ul style="list-style-type: none"> リビングが重要であるという意見を尊重すると、間取りは2LDK~3LDK程度 乳幼児の安全への配慮 省エネへの配慮(発電、暖房などの面) 駐車場は最低各戸2台必要 入居期限は子どもが18歳になるまで 家賃は2~3万円台/月

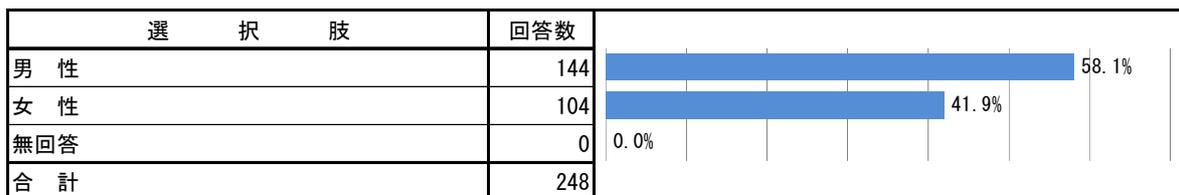
	望ましい付加価値について	補足意見・情報など(地域づくりの観点)
A班	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内に公園(安全に遊べるように) 児童館などの子どもたちが集い、安全に遊べる場所 地域の集会所(親たちが気軽に集まれる場所) 学童保育 地場産品の販売所 熊井の旬の花や周辺をもっと活用する 公共交通(バス停には駐輪場があるとよい) 	<ul style="list-style-type: none"> 就業の場が近くにあるとよい(商業施設が理想) 鳩山町は「子育て応援宣言登録企業※」が少ない 一人親家庭の住宅もお願いしたい 農村公園の活用(アスレチック施設の設置など) 学童保育に運動系又は学習系を選べるシステムがあるとよい 地域住民が放課後の子ども見守りに協力するなど デマンドタクシーをもっとPRする 北本市子ども公園のような遊具の充実した公園があれば魅力的(鳩山ならではの目玉になる遊具があるとよい)
B班	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世帯と地域住民が交流できる公園や集会所 子育て世帯の人たちの集いの場 放課後に児童たちが集まれる公園や児童館 安全にボール遊びができる平らな公園 親の目が届く場で子どもたちが遊べる場 庭 家庭菜園、貸し農園 ペットが飼える、ドッグランがあるなど 医療機関(整形外科、眼科、皮膚科、耳鼻科) 	<ul style="list-style-type: none"> 土地の一括借り上げ、大家制度の導入(土地を手放したくない地権者への配慮として) 亀井小が少人数教育であることを逆に売りにする 子育て支援住宅の入居期限後も、地域に残ってもらえるような工夫が必要(他の住宅斡旋、鳩山NTの中古住宅斡旋など) 亀井分館をつどいの広場「ぼっぼ」のような施設に改築したらどうか 田舎暮らしの良さをアピールする 農業をやっている人たちが子育て世代に野菜づくりや食育の大切さを教えるなど 地盤が固く地震に強いまちであることをアピールする 入居者(若い母親)向けに運転免許の取得支援(料金割引、子どもの一時預かり)など 獅子舞など地元伝統文化のイベントを盛んに行う
X班	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民との交流の場 親同士、子ども同士が交流できる公園、児童館など 学童保育(亀井小の近くに) 小児科 公共交通(バス)の復活 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数教育のよさをアピールする 亀井運動場の活用(プラス何かほしい) 生活道路の整備(細い道や畦道が多い) 遊具の充実した公園がほしい 買い物のできる商業施設があるとよい
Y班	<ul style="list-style-type: none"> 保育施設の併設 図書館、公園の整備(放課後の児童対策として) 公共交通(最低限、大橋から亀井小までのバス) 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅が建つことにより商業等の誘致や地域活性化に結びつく 建設候補地が絞られた時点で、当該地区住民への意向調査が必要 山村学園短大と幼稚園～高校との連携強化が必要 山村学園では西側の「石坂の森」で里山保全体験等を実施 山村学園運営のつどいの広場「ぼっぼ」は H24.4 から土曜日も開催予定であるが人手の確保が課題 亀井運動場等の活用(グランドゴルフ、野球、自動販売機設置) 亀井小の空き教室の活用(カルチャースクール、子育て相談等) 買い物に便利な商業施設があるとよい
Z班	<ul style="list-style-type: none"> 庭付き、家庭菜園付き 子どもたちが交流できる公園や児童館 公共交通(駅へのシャトルバス、職場や学校までの交通手段の確保) 子ども用のオンデマンドバス 訪問保育や一時保育サービス 	<ul style="list-style-type: none"> 亀井地域への職場の確保が必要 亀井地域は兼業農家が多いので、地域の人たちと農業を通じて何かできれば交流につながる 子どもが安全に通行できる歩道整備やサイクリングロードの整備 地盤の固さをアピールすべき
総括	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世帯と地域住民の集会所 保育関連施設やサービス 放課後に子どもたちが集える施設(学童保育、ボール遊びができる公園、児童館等) 親の目が届く幼児の遊び場 家庭菜園、貸し農園 医療機関(小児科他) 公共交通の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て終了後も地域へ残ってもらえる工夫 企業誘致や地域の雇用創出(子育てに協力的な企業) 既存施設の活用(空き教室、亀井分館、亀井運動場) 少人数教育を強みとしてアピール 遊具の充実した公園づくり 農業を通じた交流(兼業農家の協力)、田舎で子育てする魅力づくり 地震に強いまち(地盤が固い)をアピール 道路基盤の整備 デマンドタクシーの利用促進 買い物利便性の確保

④意識調査の結果と考察（回答数＝248件）

以降に、ワークショップの結果も含めて意識調査の結果と考察を整理する。ここでの考察にもとづき、整備計画を策定することとする。

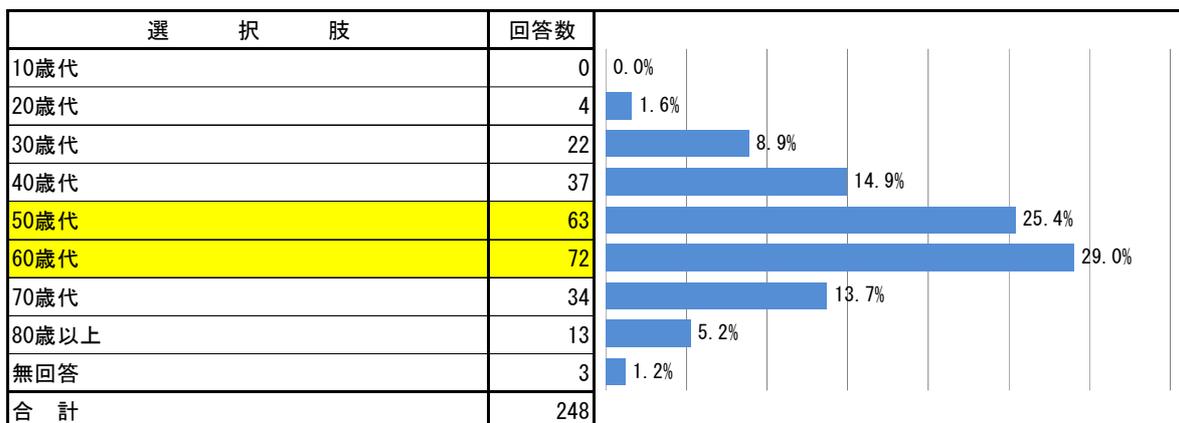
（問1）あなたの性別はどちらですか。

- ・回答者の性別は、概ね男性6：女性4である。このことから、北部地域における子育て支援に関しては、女性だけでなく、男性も相応の関心を持っているということが伺える。



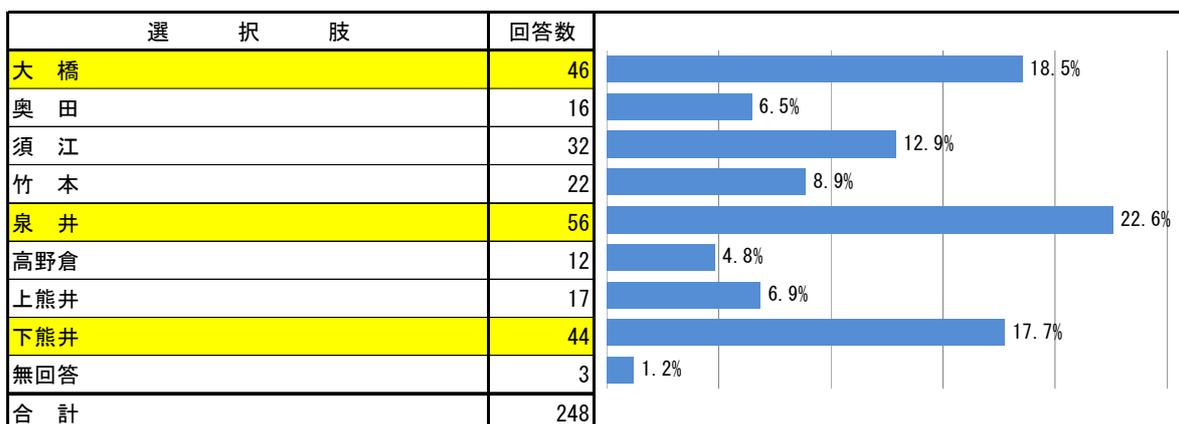
（問2）あなたの年齢を教えてください。（平成23年11月1日現在）

- ・回答者の年代は、50歳代と60歳代が5割強を占めている。これに関しては、一家の代表者としての意味もあるだろうが、今後、老年人口に移行していく世代であり、かつ現状における主たる世代であることを意味しているであろうことが伺える。
- ・したがって、今回の意識調査の回答結果（意向）は、50～60歳代を中心としたピラミッド型に構成されていることがわかる。



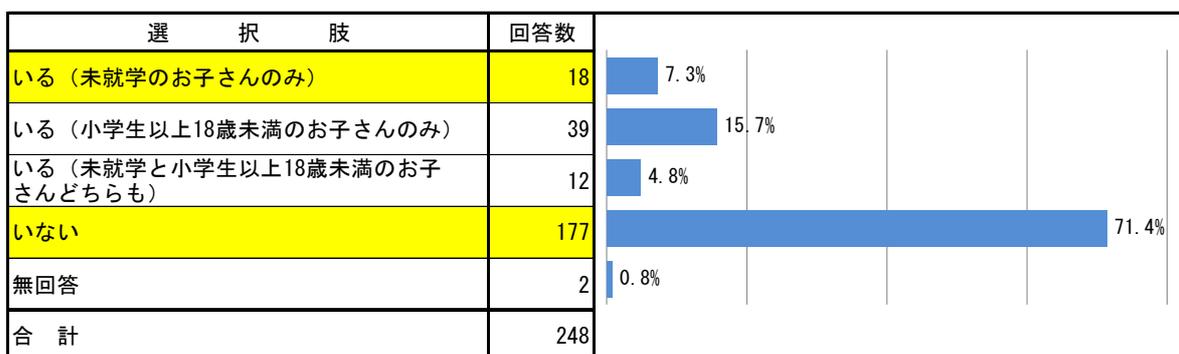
（問3）あなたのお住まいの地域を教えてください。

- ・亀井小が立地する泉井地区の回答数が最も多く、次いで隣接する大橋地区である。熊井地区については、上熊井より下熊井のほうが回答数が多い。



(問4) あなたのご家族のなかに、「未就学」または「小学生以上18歳未満」のお子さんがいますか。

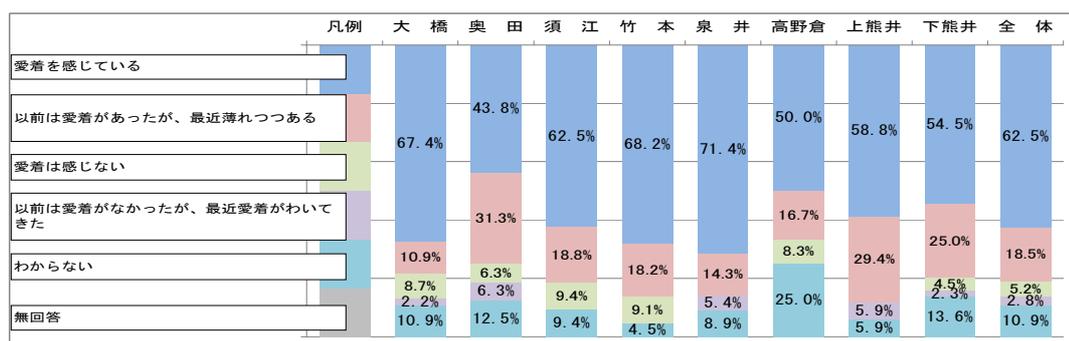
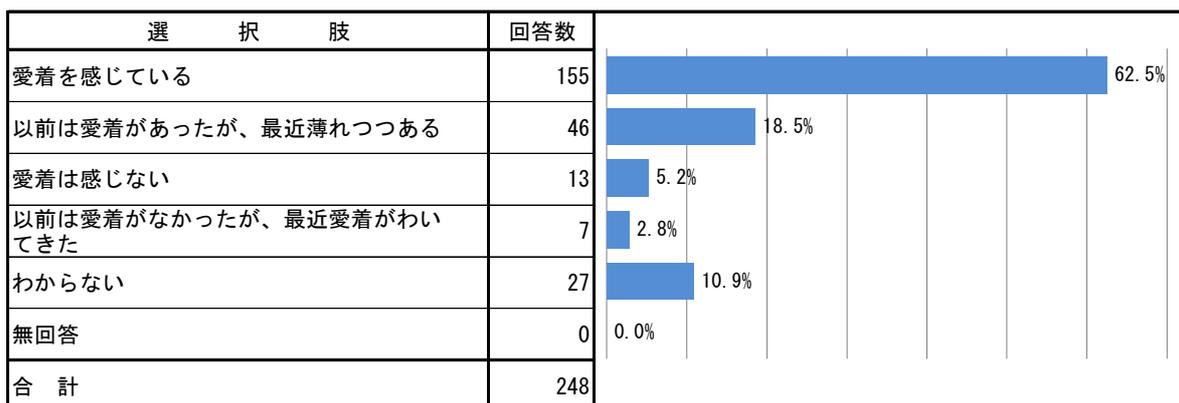
- ・回答数248世帯のうち、18歳未満の子どもがいる世帯は69(27.8%)であり、さらに未就学の子がいる世帯はわずか18(7.3%)である。これは単純に考えて、来年度の亀井小の新入生は18人未満ということが予想される(意識調査の回収率を考慮すると実人数は若干期待できる)。
- ・地区別にみると、18歳未満の子どもがいる世帯数は、大橋地区と泉井地区に多いことがわかる。また未就学児については下熊井が5人と最も多い。



	大橋	奥田	須江	竹本	泉井	高野倉	上熊井	下熊井	計
未就学児	2	1	1	3	3	0	2	5	18
小学生~18歳未満	8	3	3	4	15	2	1	3	39
両方とも	5	0	3	1	3	0	0	0	12
計	15	4	7	8	21	2	3	8	69

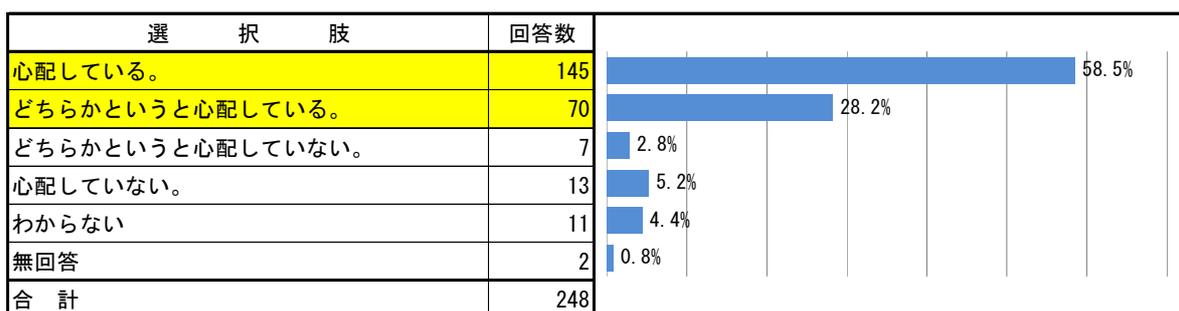
(問5) あなたは、亀井小学校に愛着を感じていますか。次の中から1つだけ選んでください。

- ・亀井小に「愛着を感じている」と「最近愛着がわいてきた」の合計が65.3%であり、地区別では亀井小が立地する泉井が最多(76.8%)で、次いで竹本、大橋、須江といった亀井小に近い地区は愛着度が高いが、概して地域的な愛着度は高いものといえる。

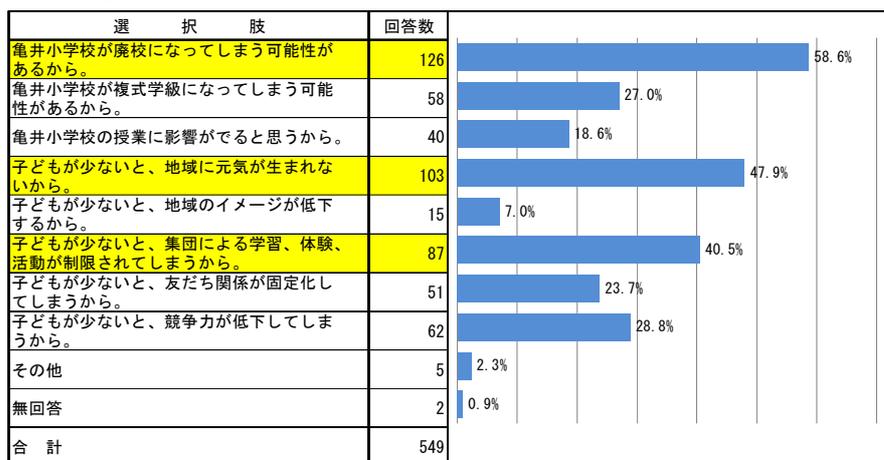


(問6) 亀井小学校の児童数は大きく減少しています。このことをどのように思いますか。

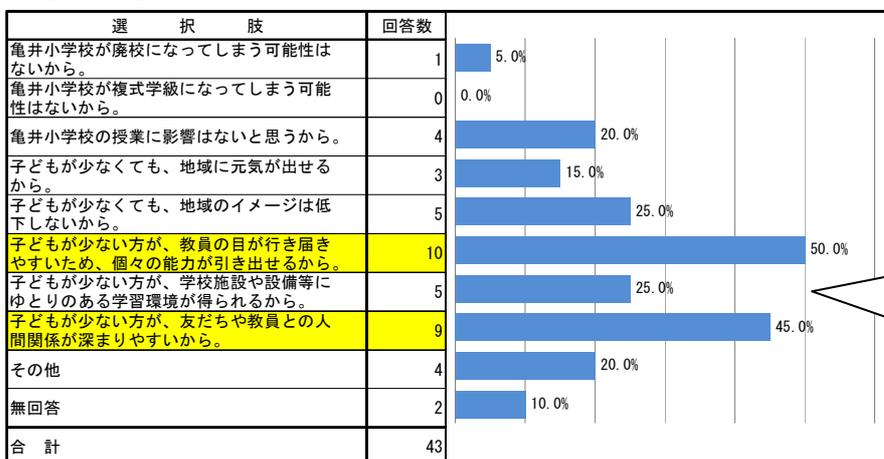
- ・「心配している」と「どちらかという心配している」の合計が 86.7%であり、各地区とも同様の高い数値を示している。すなわち地域的な総意としては、亀井小の児童数減少を心配しているといえる。
- ・心配する理由についても、「亀井小の廃校」に次いで、「地域に元気が出なくなる」、「子どもが少ないと学習、体験活動が制限されてしまう」といったことを心配するものが多い。
- ・一方、少数意見ではあるが心配しない理由としては、「子どもが少ないほうが教員の目が届き個々の能力が引き出せる」、「友だちや教員との人間関係が深まりやすい」といった、いわば“少人数教育の良さ”という前向きな点をあげている。これについては、ワークショップでも同様の意見（少人数教育の強みをアピールすべき）が出されている。



<心配する理由>



<心配しない理由>



心配しない理由については、決して無関心だからということではなく、少人数教育の良さを指摘する意見が多い。

(問7) 亀井小学校の児童数を増やすために、何らかの具体的な対策が必要とお考えですか。

- ・亀井小の児童数を増やすための具体策が必要という意向は全体で76.2%である。
- ・地区別では、大橋、須江、泉井、下熊井で必要性が高い結果である。

選 択 肢	回答数	
必要と考える。	124	50.0%
どちらかという、必要と考える。	65	26.2%
どちらかといえば、必要と考えない。	11	4.4%
必要と考えない。	12	4.8%
わからない	19	7.7%
無回答	17	6.9%
合 計	248	

<地区別の意向>

選 択 肢	大 橋	奥 田	須 江	竹 本	泉 井	高野倉	上熊井	下熊井	全 体
必要と考える。	23 50.0%	5 31.3%	17 53.1%	12 54.5%	22 39.3%	4 33.3%	11 64.7%	28 63.6%	124 50.0%
どちらかという、必要と考える。	13 28.3%	9 56.3%	6 18.8%	4 18.2%	19 33.9%	4 33.3%	3 17.6%	7 15.9%	65 26.2%
どちらかといえば、必要と考えない。	2 4.3%	0 0.0%	3 9.4%	1 4.5%	2 3.6%	1 8.3%	1 5.9%	1 2.3%	11 4.4%
必要と考えない。	3 6.5%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	4 7.1%	1 8.3%	0 0.0%	3 6.8%	12 4.8%

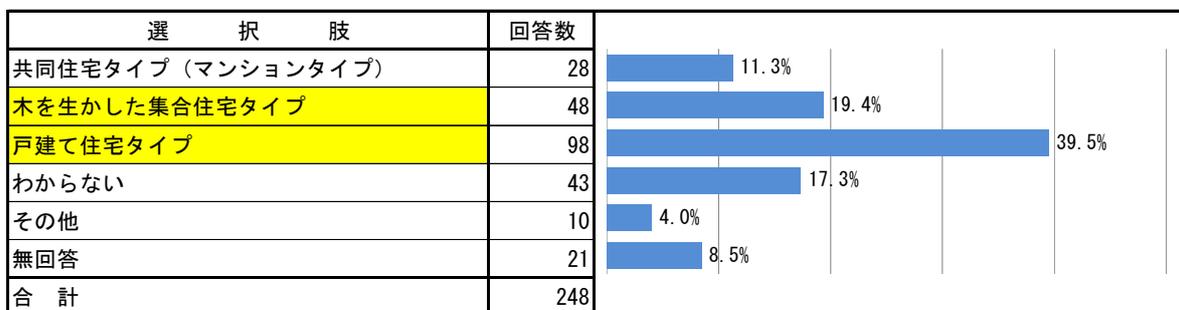
(問8) 町では、亀井小学校の児童数増加を図るため、子育て世代を対象とした町営住宅を、亀井地域に整備したいと考えています。このことをどのように思いますか。

- ・「推進すべきと思う」と「どちらかという、推進すべきと思う」の合計が66.9%である。
- ・理由は、「児童数増加に直結する」、「効果的な付加価値をつければ亀井地域活性化の拠点となる」、「新たなコミュニティが生まれる」など、地域の活性化を期待するものが多い。
- ・一方、推進すべきでないという理由としては、「亀井地域活性化の拠点になると思えない」、「効果が期待できない」、「新たな問題発生懸念」など、本計画の効果や新たな取り組みに対する懸念を問うものがあげられる。

選 択 肢	回答数	
推進すべきと思う。	91	36.7%
どちらかといえば、推進すべきと思う。	75	30.2%
どちらかといえば、推進すべきでないと思う。	24	9.7%
推進すべきでないと思う。	24	9.7%
わからない	25	10.1%
無回答	9	3.6%
合 計	248	

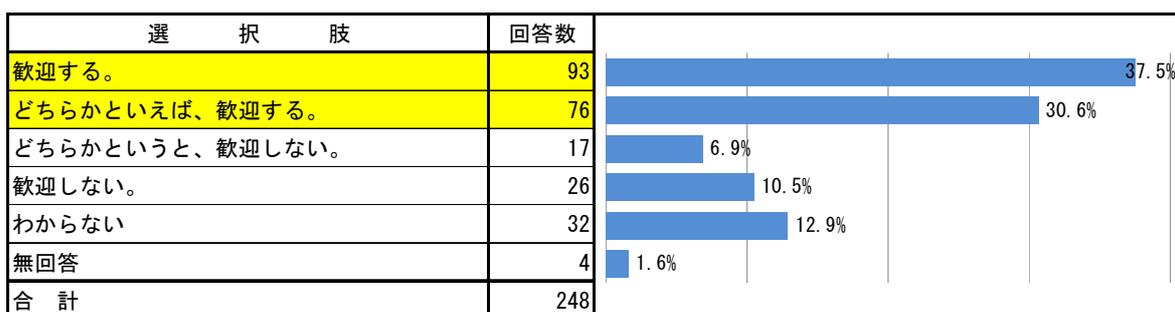
(問9) 子育て支援住宅を整備する場合、住宅の形式について、どのように思いますか。

- ・「戸建て住宅タイプ」が 39.5%、「木を生かした集合住宅タイプ」が 19.4%、「共同住宅タイプ（マンションタイプ）」が 11.3%である。これは地域的な背景からも当然の結果といえ、各地区とも同様の傾向である。
- ・ワークショップにおいても、プライバシーや音に配慮されており、地域に馴染む外観であれば戸建て、集合住宅どちらも可能性ありという総意であった。



(問10) あなたの住んでいる地域（大字）で、「子育て支援住宅」を受け入れることについて、どのように思いますか。

- ・「歓迎する」と「どちらかといえば歓迎する」の合計が68.1%、「歓迎しない」と「どちらかというくと歓迎しない」の合計が17.4%であり、概ね7割が歓迎意向を示している。
- ・ただし、地区別においては若干のばらつきはみられる。例えば「大橋」などは歓迎意向は高いが、歓迎しない意向も10件ほどみられるし、「上熊井」は歓迎意向は低い歓迎しない意向も低い。したがって建設候補地の絞り込みにおいては、より詳細な地元意向を把握していくことが必要であるといえる。
- ・「わからない」という回答も1割強みられるが、これは、どのような住宅ができ、どのような形で子育て世帯と共に生活していくのかという具体的なイメージが描けないからであろうと思われる。

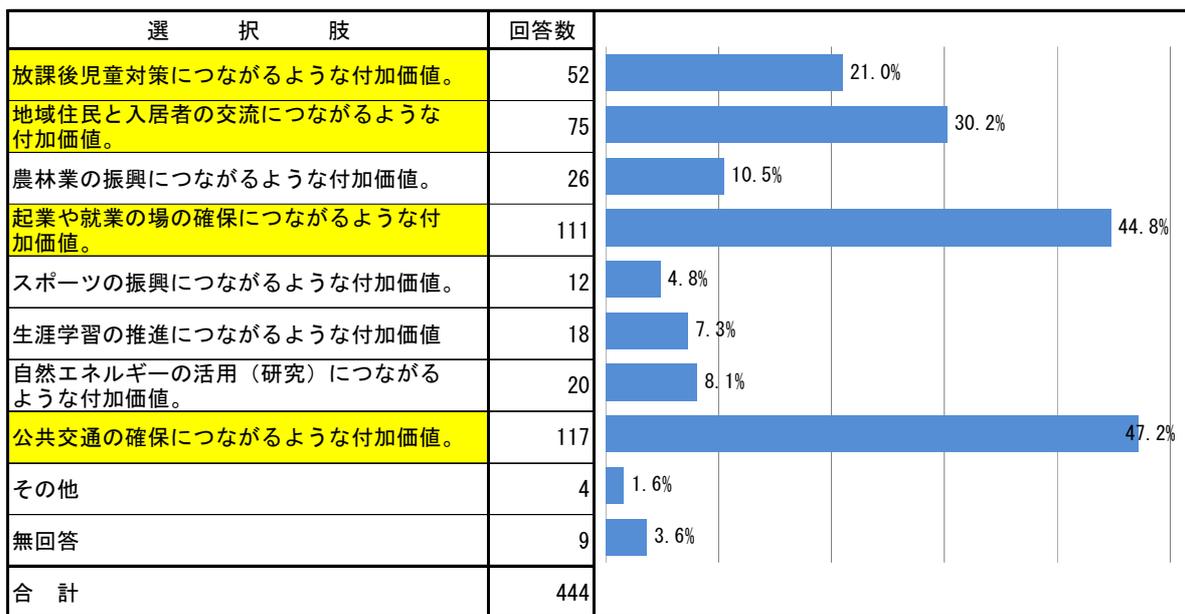


<地区別の歓迎意向>

選 択 肢	大 橋	奥 田	須 江	竹 本	泉 井	高野倉	上熊井	下熊井	全 体
歓迎する。	16	4	17	6	18	3	5	22	93
	37.2%	36.4%	58.6%	33.3%	36.7%	27.3%	41.7%	59.5%	43.9%
どちらかといえば、歓迎する。	17	3	5	8	22	7	5	9	76
	39.5%	27.3%	17.2%	44.4%	44.9%	63.6%	41.7%	24.3%	35.8%
どちらかというくと、歓迎しない。	2	2	2	2	5	0	2	2	17
	4.7%	18.2%	6.9%	11.1%	10.2%	0.0%	16.7%	5.4%	8.0%
歓迎しない。	8	2	5	2	4	1	0	4	26
	18.6%	18.2%	17.2%	11.1%	8.2%	9.1%	0.0%	10.8%	12.3%

(問 11) 町では、単なる「子育て支援住宅」ではなく、亀井地域の活性化につながるような『付加価値』を付けた整備を行いたいと考えていますが、どのような『付加価値』が良いと思いますか。

- ・「公共交通の確保につながるもの」が 47.2%、「起業や就業の場の確保につながるもの」が 44.8%、「地域住民と入居者の交流につながるもの」が 30.2%、「放課後児童対策につながるもの」が 21.0%である。
- ・この傾向は各地区とも同様であり、産業の振興というよりも、日常生活に密着した付加価値を望む意見が多いという結果である。
- ・また、ワークショップや意識調査の自由意見においても同様の意見が出されており、子育て支援住宅と一体的に整備する機能として考えると、「放課後の児童の遊び場」、「交流施設」などがあげられることとなる。



<ワークショップにおける付加価値に関する意見総括>

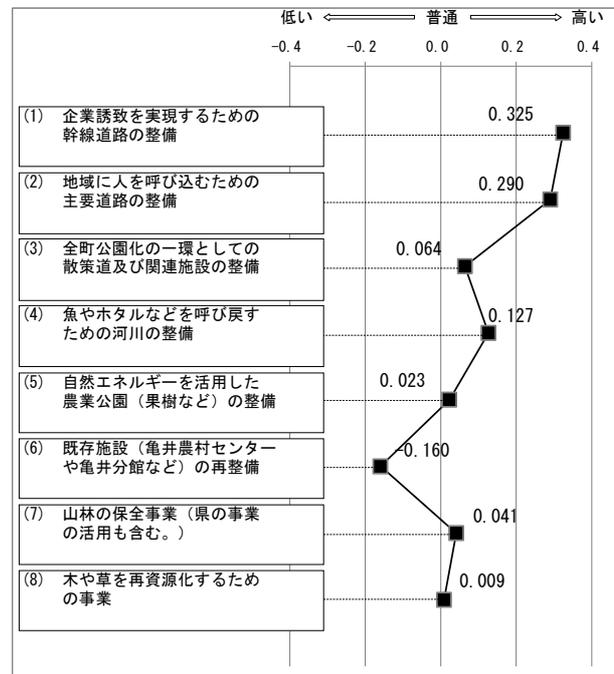
- 子育て世帯と地域住民の集会施設
- 保育関連施設やサービス
- 放課後に子どもたちが集える施設(学童保育、ボール遊びができる公園、児童館等)
- 親の目が届く幼児の遊び場
- 家庭菜園、貸し農園
- 医療機関(小児科他)
- 公共交通の確保

<自由意見からの抜粋>

- ◆ 交通が不便なため車に乗れないと出ていってしまう。
- ◆ 保育園や児童館があると、共働き世帯は安心して子育てできるのでは。
- ◆ 亀井は児童が少なく、交流する人や場所にも恵まれていないのだから、放課後の児童対策を是非考慮していただきたい。
- ◆ 農園を隣接するなど、住宅周りの整備も必要。
- ◆ 住宅と休耕農地をセットで活用できるような形態はどうか。
- ◆ 泉井には子どもの遊ぶ公園が少なく困っている。

(問 12) 町では、第 5 次総合計画に基づき「北部地域（亀井地域）の再生・創造事業」に取り組む予定ですが、実現性を重視しながら、次のような事業を検討したいと考えています。この事業の重要度について、あなたのお気持ちに最も近いものを、(1)から(8)までの事業内容ごとに、1つだけ選んでください。

- ・各事業に関する重要度について、高いを0.4ポイント、普通を0.0ポイント、低いを-0.4ポイントとして可視化すると、道路整備に関する事業の重要度が最も高い結果となる。
- ・次いで、河川や散策道などの全町公園化に関する事業も重要度が高いほうに分類される。
- ・逆に、既存施設（亀井農村センターや亀井分館など）の再整備については低い結果となっている。これは、日常生活の中であまり利用する（目的がない）施設ではないからと予想され、魅力的な活用方法であればまた違った結果になるであろう。
- ・地区別にみると、各地区とも「道路整備」の重要度は高いが、町の西部に位置する高野倉と上熊井などは特に高い。
- ・奥田においては、「全町公園化の一環としての散策道及び関連施設の整備」の重要度が高く泉井、上熊井、下熊井などは「魚やホタルなどを呼び戻すための河川の整備」の重要度が高い。
- ・この設問の結果については、今後の北部地域再生・創造事業の方向性として活用していくものとする。



<地区別の事業重要度：注）色が濃いほど重要度が高い。>

事業項目	大橋	奥田	須江	竹本	泉井	高野倉	上熊井	下熊井
(1) 企業誘致を実現するための幹線道路の整備	0.386	0.438	0.417	0.200	0.231	0.727	0.600	0.163
(2) 地域に人を呼び込むための主要道路の整備	0.467	0.000	0.304	0.421	0.192	0.500	0.375	0.167
(3) 全町公園化の一環としての散策道及び関連施設の整備	0.114	0.417	-0.043	-0.053	0.060	0.000	-0.071	0.119
(4) 魚やホタルなどを呼び戻すための河川の整備	0.045	0.167	0.000	-0.053	0.220	0.000	0.267	0.256
(5) 自然エネルギーを活用した農業公園（果樹など）の整備	0.023	0.083	0.043	-0.158	0.100	0.100	-0.250	0.071
(6) 既存施設（亀井農村センターや亀井分館など）の再整備	-0.182	-0.083	-0.083	-0.158	0.080	-0.300	-0.400	-0.333
(7) 山林の保全事業（県の事業の活用も含む。）	0.045	0.083	0.087	-0.263	0.135	-0.091	-0.067	0.119
(8) 木や草を再資源化するための事業	0.045	0.000	-0.083	-0.368	0.060	0.091	-0.333	0.214

また、ワークショップ及び意識調査の自由意見においても以下のような地域づくりに関する意見が出されている。

<ワークショップにおける地域づくりに関する意見総括>

- 子育て終了後も地域へ残ってもらえる工夫
- (子育てに協力的な)企業の誘致や地域の雇用創出
- 既存施設の活用(空き教室、亀井分館、亀井運動場)
- 少人数教育を強みとしてアピール
- 遊具の充実した公園づくり
- 農業を通じた交流(兼業農家の協力)、田舎で子育てする魅力づくり
- 地震に強いまち(地盤が固い)をアピール
- 道路基盤の整備
- デマンドタクシーの利用促進
- 買い物利便性の確保

<意識調査の自由意見からの抜粋(地域づくりに関する意見)>

- ◆人を集めるには雇用だと思ふ。
- ◆結婚適齢期の若者が結婚できないのが最大の原因。徹底した結婚相談所の設置とあわせて出生率を上げる政策が大事と考える。
- ◆起業、就業希望者に対し、積極的かつ親切な対応を行う相談窓口の設置など、根本的な政策を考える部署の設置が急務。
- ◆県道41号(大橋～奥田間)について、交通量が多く、大型車もスピードを出しており、自転車も多いため、両側に歩道ができない限り企業誘致には反対。
- ◆鳩山を生かした名物ができないか。
- ◆幹線道路の周辺にも住宅が建つような方策も是非考えてほしい。亀井地区は自然環境も良く、住むには最適な地であるので、この地の利を活かした事業も大いに展開してもらいたい。

これらの意見は、付加価値型「子育て支援住宅」とあわせて、地域の魅力向上ならびに定住人口の増加を図ることを目指す上で貴重な意見であり、これらは以下のような課題として整理できる。

<地域づくりへ向けての課題>

- ①安全に歩ける道路環境(歩道整備等)の整備促進
- ②子育て終了後も地域に住み続けてもらえるような工夫(仕組み)づくり
- ③鳩山オリジナルの名産品の開発
- ④人を集めるための雇用の創出(子育てに協力的な企業の誘致)
- ⑤結婚適齢期世代の結婚促進と出生率の向上のための仕組みづくり
- ⑥既存施設を活用した魅力づくり(建物施設、公園等のリニューアル)
- ⑦“地震に強いまち”であることをアピール
- ⑧デマンドタクシーのPRと利用促進